

電子図書館を利用した高校生向け講義案内

安田伸一

佐賀大学経済学部

yasudas@cc.saga-u.ac.jp

1. はじめに

佐賀大学経済学部は高校生向けの講義案内「おとなの社会」を見る目がかわる / 佐賀大学経済学部の講義案内」を新規に作成し、2003年6月に経済学部のホームページで公開しました (<http://www.eco.saga-u.ac.jp/tour/>、図1)。

この講義案内では、経済学部で学ぶ象徴的なテーマをキーワードで表わし、興味を持ったキーワードについて、解説と関連する講義のシラバスをみてもらうように作られています。現在は21のキーワードがあり、表1に示します。キーワードの解説は経済学部の専任教員が執筆し、シラバスは電子図書館「とんぼの目」のオンライン・シラバスを参照します。

キーワードの解説は、高校生向けに平易で身近な題材を選んでいきます。例えば、経済学の分野から賃金に関する解説は、次の通りです。

大学で学ぶ【賃金】とは (佐賀大学経済学部教授 富田義典)

賃金にはいくつかの考え方があります。ここではそのうちの一つを紹介します。皆さんの中には、賃金とは、頑張って働いたことに対するほうびのようなものだと考える人がいるかもしれませんが、経済学ではそういった考えはとりません。かりに80歳まで生きる人がいるとします。一日のうち8時間は寝るとすれば、その人には生涯467,200時間自分で使える時間があたえられていることとなります。しかしその人が他人といっしょに働いているか、他人に雇われて働いているとすると、多少自分の考え方が通ることがあるとしても、働いている時間は自分の自由な意志で使えない時間(他人の時間)となってしまいます。そのことはアルバイトをしたことのある人は分かるはずです。自分の時間がどこかに行ってしまう感覚は、ミヒヤエル・エンデの『モモ』の時間どろぼうのはなしを読んだときにいただく感覚と似たところがあります。

ところで、そう考えると、先の80歳まで生きる人が週休2日で一日8時間80歳まで働くとしたら、172,160時間は他人の時間となってしまいます。自分の勝手にできた時間のうち三分の一以上が自分の意志で使えなくなる勘定となります。これほどまでに自分のものを他人に渡してしまったのだから、見返りがあって当然です。それが賃金です。したがって賃金は、もともと自分のものであったものをお金のかたちにして取りもどしているだけであって、どこぞの誰から

表1 講義案内のキーワード(2003年6月)

経済学の分野	経営学の分野	法律学の分野	地域と政策の分野
銀行、金融	企業、経営	憲法	地方財政
賃金、労働	簿記、会計	民法	福祉
マクロ経済学	企業評価、経営分析	行政法	地域経済
ミクロ経済学	雇用	経済法	
	流通		

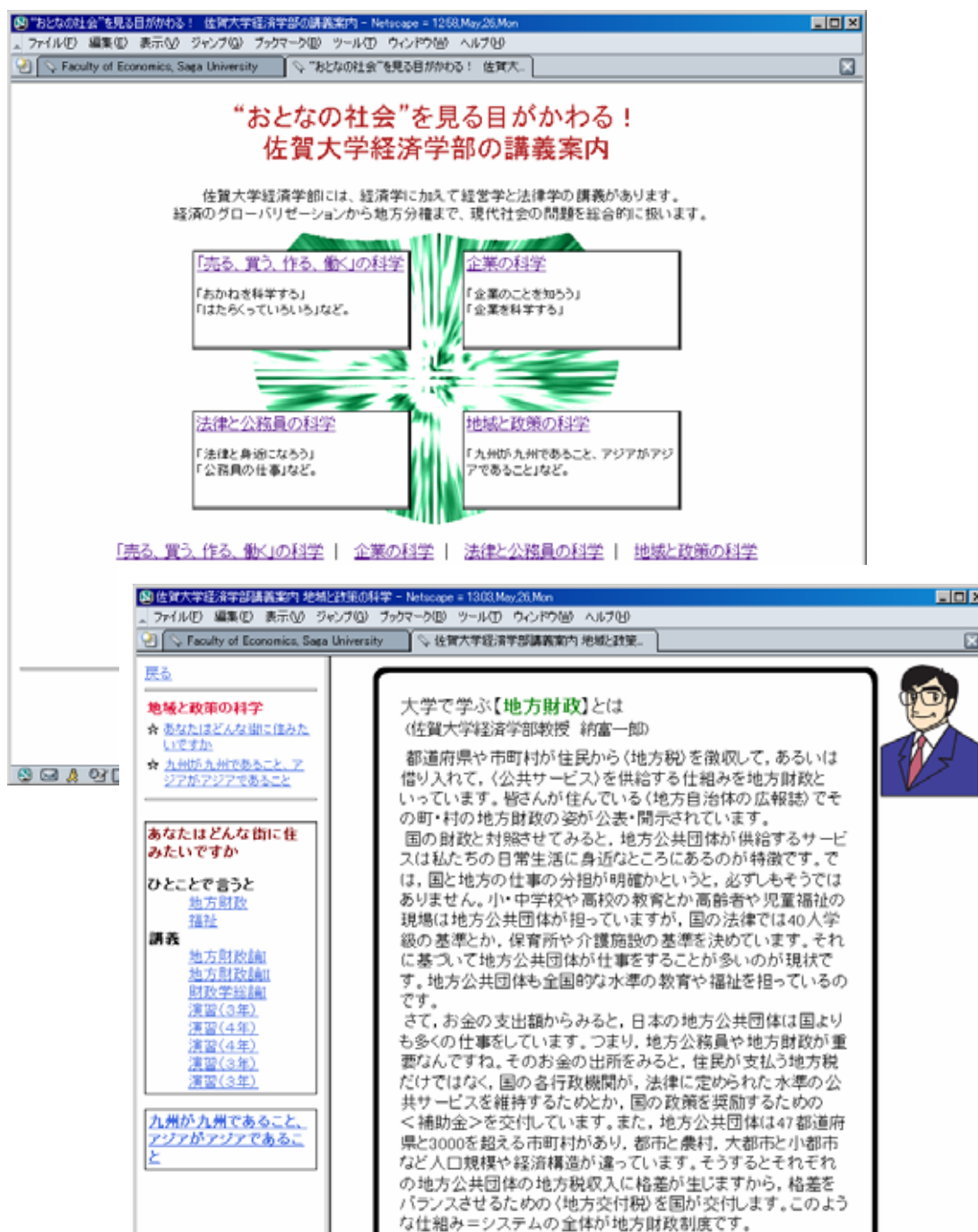


図 1 講義案内の Web ページ

ほうびをもらったのでも、まして施しとしてあたえられたものでもありません。サラリーの語源はソールト塩 salt ですが、他人に貸してあった塩を返してもらおうという意味からソールトがサラリーとなったともいわれています。このように、賃金はもともと自分のものですから、どう考えても少ないと思われる時などは、ちゃんと公正な額を払ってもらおうよう求めることができ、またそれをしなければ自分自身を軽んじたことになります。もちろん、どのあたりの水準が公正な賃金かはむずかしい問題です。労働経済学とはそのあたりにうんちくを傾ける学問です。

平易な言葉と身近な題材で入門的に書かれたキーワードの解説と、実際に開講されている講義

のシラバスとの両方を高校生に提示することにより、すでに特定の興味を持った勉学意欲のある高校生からの入学後の具体的な科目を知りたいという要求に対応し、また具体的な興味に気がついていない生徒の進路の具体化に対応します。本論文では、第二章で本システムのねらいを示し、第三章でシステムの構成を示します。

2. ねらい

現在、経済学部には、二課程四コース(国際経済社会コース、企業経営コース、法務管理コース、総合政策コース)が設置されています。本学部の名称は経済学部ですが、他大学の法学部や商学部、政治学部が開講される専門科目があり、社会科学全般を教育分野とする学部になっています。このような名称と内容の不一致は、学外の人にとって本学部の教育分野をわかりにくくしています。本学部は、特に大学進学を検討する高校生に対して、教育分野の積極的な広報活動が必要であり、高等学校の進学指導担当の方への重要な説明事項となっています。

本システムは、佐賀大学経済学部に興味を持った高校生に、直接、学部の名称以上に教育分野が広いことを広報するために設置されました。想定した利用者は高校生で、次の二つのグループを想定しました。一つ目のグループは、社会科に興味があり、もっと知りたい特定の分野のイメージのある高校生のグループです。こちらのグループは、両親などからの助言や進学指導などを通じて、大学の授業や佐賀大学経済学部に関する多少の知識や意欲が期待されます。

もう一つのグループは、以前から社会科や佐賀大学経済学部に関心を持ってきたわけではありませんが、何らかのきっかけで佐賀大学経済学部が進学の候補となった高校生のグループです。こちらのグループには、好奇心が期待されます。

前者のグループを「知りたいグループ」、後者のグループを「好奇心グループ」と名づけ、それぞれに対応する講義案内の内容について考察します。

2.1 知りたいグループに対して提供する情報

このグループの高校生へ提供する主要な情報は、高校生の興味に関連する経済学部の講義の集合です。例えば、高校で簿記の資格を取ってきた生徒のなかには、簿記の理論的な裏づけを大学で学びたいと思っている人がいます。また、公務員志望の生徒は、自治体の役割とその根拠を知りたいと思うかもしれません。

従来の情報提供の方法は、高校で開催される大学説明会で質問を受ける方法と、佐賀大学電子図書館「とんぼの眼」でシラバス検索を利用する方法とがありました。大学説明会は、限られた高校で年に一回だけしか行われません。また、シラバス検索は学部学生向けの講義計画なので、高校生の興味に対応したものではありません。例えば、「簿記」でシラバス検索を行うと五つの講義が検索されますが、本当に受講したい講義はシラバス検索から除外された、管理会計や財務会計、企業評価や経営分析かも知れません。いずれの方法も、知りたいグループの高校生への情報提供方法としては弱点があります。

このグループの高校生には、社会科学の分野での自分の興味があります。しかし、高校生が興

味を示す事柄を前もって列挙することはできません。なぜならば、社会科学は人間社会の現象を扱っているため、あらゆるものが社会科学と関連する可能性があり、キーワードの集合は数え切れないからであり、時代の変化に応じて区別される人間社会の現象そのものも増加するからです。

そこで、知りたいグループ向けの講義案内として、大量のキーワードによって擬似的に高校生の興味に対応する方法と、自由文による検索で講義情報を提供する方法とが検討されました。前者の方法はハンドブックを作成することと同様の作業ですから、高校生向けの講義案内の作成に見合った労力ではありません。後者の方法は、「とんぼの目」のシラバス検索がうまく行かない場合と同じ状況が想定され、講義案内として役に立たないと結論づけられました。

キーワードの入力と検索による方法で興味と講義の結びつけが困難な理由は、高校生が自分の興味をキーワードや文章で表わせるとは限らないからです。興味があいまいなためにキーワードを思いつかない場合もありますし、関連する別のキーワードに気がつかないために興味と講義のすれ違いが起こる場合もあります。したがって、目的を持って講義案内を利用する「知りたいグループ」の高校生を対象とした場合であっても、適切な案内が必要であることがわかります。

本システムでは、高校生の興味と講義を結びつける案内として、三階層のキーワード集合を用意しました。一つ目の階層は、学部設置されている四つのコースに対応します。「法律と公務員の科学」といった表現を用いて、「法律学」といった言葉の持つ固さを避けています。二つ目の階層は、あいまいな興味を誘導するために平易な文章で社会科学のテーマを分類します。三つ目の階層は、関連するキーワードと講義名を同時に表示して、興味と講義のすれ違いを防ぎます。「知り

表 2 経済学の分野での興味の誘導

第一階層	第二階層	第三階層
「売る、買う、作る、働く」の科学 (国際経済社会コース)	おかねを科学する	キーワード 銀行、金融
		講義 金融論、企業評価、国際会計論、理論経済学、財務管理論、企業論
	はたらくって、いろいろ。アルバイトとサラリーマンは違うよね	キーワード 賃金、労働
		講義 労働経済論、理論経済学、労使関係システム
で、「経済学」ってなんだろう		キーワード マクロ経済学、ミクロ経済学
		講義 マクロ経済学概論、マクロ経済分析、経済数学

たいグループ」の高校生は、互いに関連する分野のキーワード群と講義の名称が同じ画面で一覧できることで、興味のある分野のシラバスを見落とさなくなります。また、キーワードの解説を読むことで、特に向学心のある生徒が自分の興味の分野の担当教員を入学前に知ることができることも期待しています。表 2 に経済学の分野を例に、三つの階層のキーワードの配置を示します。

2.2 好奇心グループに対して提供する情報

このグループの高校生へ提供する主要な情報は、大学で学ぶ社会科学のいずれかの分野に興味を持ってもらえる情報の提供です。例えば、高校の社会科の授業に興味はなかったけれども、早く大学を卒業して働き、いずれは会社を作りたいと思っている高校生がいたとしましょう。この人は、資金調達の知識や会社の状態を一目で見渡すための会計学の知識が佐賀大学経済学部で学べることがわかれば、経営学の分野の講義に興味を持つかもしれません。

従来の情報提供の方法は、学部案内で学部の講義内容の全体像を提示する方法でした。自発的な興味を持たない高校生に対して多様なメニューを示すことで、これを熟読すれば一つくらい興味を持てる分野が見つかるかもしれません。しかし、興味をもてない多数の項目に目を通さなくてはならないため、すべての人が学部案内を熟読するとは限りません。また、比較的詳しい説明は学部と課程、コースであるため、説明の抽象度が高く、高校生が身近に感じられないことも予想されます。個々の講義の具体的な内容は「とんぼの眼」のオンライン・シラバスでいつでも参照できますが、もともと興味を持っていない高校生に使いやすいインターフェースにはなっていません。

このグループの高校生には、佐賀大学経済学部に対する好奇心を期待できます。好奇心さえ持続すれば、提供される情報を遊び半分に見てもらえるだろう、と考えられます。したがって、好奇心グループへ提供する情報は、好奇心の維持と操作性のよさが重要となります。

本システムでは、高校生の好奇心に対応するために、単純なキーワードではなく説明的な表現による分野の項目分けと、学部の専任教員によるキーワード解説を用意しました。例えば、表 2 に示した第一階層と第二階層は、「経済学」の代わりに「『売る、買う、作る、働く』の科学」と表現していますし、「金融」や「銀行」の代わりに「おかねを科学する」と表現しています。説明的な表現は、目的がない場合であっても別の項目も見てみようとするため、好奇心を持続させます。

キーワードの解説は、特に身近な題材を平易な文章を使って 600 字から 1000 字程度の短さで記述され、ひと息に読める長さになっています。これは、ここで使われるキーワードの解説が社会科学のいずれかの分野に新しく興味を持ってもらうことを目的とした文章であり、学術的な完全さを目的としていないためです。

また、本学部に経済学以外の教育分野があることを印象づけるために、必ず第一階層の四つのコースに対応するメニューに戻ってから、別の分野の講義案内を参照するようにしています。

3. システムの運用

3.1 システムの構成

本システムは、経済学部で準備したキーワード解説と、佐賀大学電子図書館「とんぼの眼」に所

蔵されるオンライン・シラバスを表示します。

キーワードの解説は、HTML ファイルで静的に記述されて、佐賀大学経済学部の Web サーバにあるものを表示します。

オンライン・シラバスは、個別のシラバスを「とんぼの眼」の CGI パラメータで指定して、フレーム内に表示します。個別のシラバスを指定する URL は、例えば次のように記述されています。

```
http://syllabus.dl.saga-u.ac.jp/cgi-bin/syl/jp/syl_show_result.cgi?Subject_cd=0300000264-0010&language=jp&yr=2003&id=00000264
```

本システムの実体は、シラバスを指定するパラメータを収集し HTML ファイル群を生成する Perl スクリプトであり、生成された HTML ファイル群は通常の Web サーバにコピーされて静的に運用されます。スクリプトの動作は次の通りです。

1. 準備

キーワード、キーワードの解説、経済学部が開講される講義のオンライン・シラバス URL を準備します。キーワードは、専門分野の教員と協議して選定しました。キーワード解説は、それぞれの専門分野の教員に執筆を依頼しました。シラバスの URL は、「とんぼの眼」で経済学部の学部サーチを実行し、表示される画面から抽出します。

2. シラバスの収集

シラバスの URL からシラバス本文を収集します。

3. キーワードとシラバスの照合

シラバスの説明中にキーワードを含む講義を選び出します。

4. キーワードとキーワードの解説、キーワードを含む講義を一覧するメニューの生成

図 1 下のフレームつき Web ページを表示する HTML ファイル群を生成します。キーワードを選ぶと右のフレームにキーワードの解説が表示され、講義名を選ぶと「とんぼの眼」のシラバスが表示されます。

3.2 システムの運用

経済学部の場合、講義の進行に合わせてシラバスを更新する使い方は一例もないので、シラバスの内容は変更されないと仮定して、上のスクリプトは一年に一回だけ動作させます。

キーワードに関連する講義を本システムが表示するためには、シラバス中にキーワードを含む必要がありますので、シラバスの書き方によっては本来表示したい講義が欠落する場合があります。この場合には、シラバスにキーワードを含むように書き換えを依頼します。

また、シラバスの入力が遅れた場合も本システムの表示から欠落してしまいますので、この場合には個別にシラバス入力を依頼して、表示したい講義がすべてそろうように運用します。

3.3 稼動状況

本システムの参照数の月別の集計を図 2 に示します。学外からの参照が多いのは、7 月と 11 月でした。

本学部では、6 月から 7 月にかけて高校での大学説明会を行っています。7 月の参照数の増加は、大学説明会の影響と考えられます。また、11 月は高校での進学相談の終盤であり、進路を考

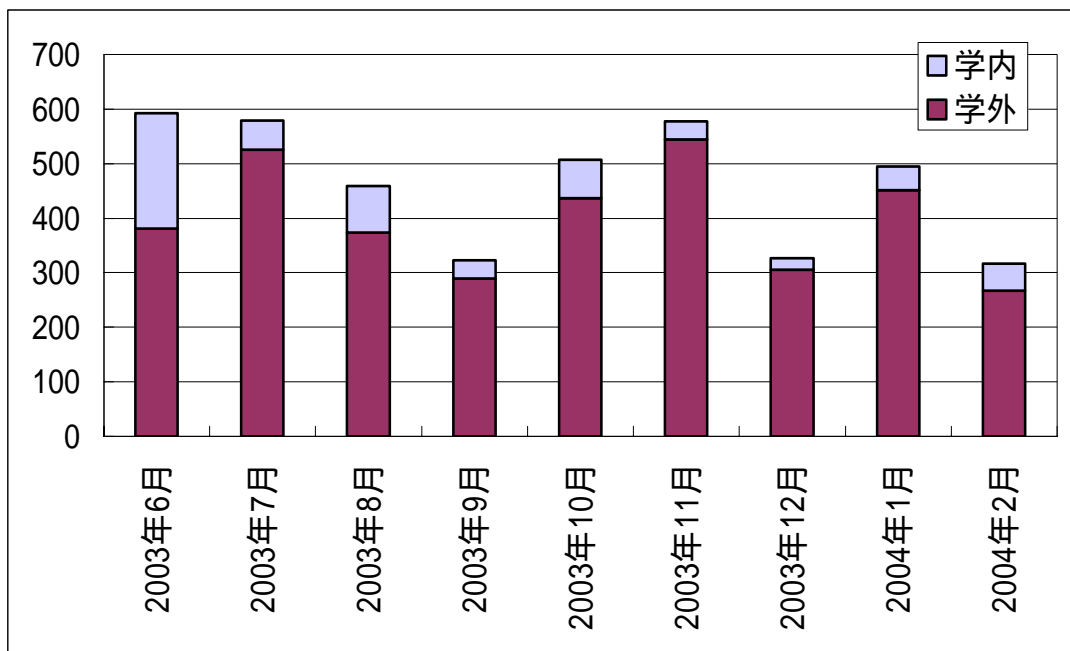


図 2 本システムへの参照数

える中で高校生が佐賀大学経済学部に興味を持って参照したものと推測されます。

本システムは2003年8月16日に佐賀新聞に紹介されましたが、あまり影響はなかったようです。また、同年8月から10月にかけて佐賀新聞の連載「佐賀大学探訪 - よこそ研究室」で経済学部が取り上げられましたが、この時期も特に参照が増えた様子はありません。

高校生が佐賀大学経済学部に興味を持つ時期をあらかじめ予想することはできません。本システムが常時稼動して高校生の興味に応じることで、一定の役割を果たしていると考えられます。

4. むすび

高校生の進学決定や大学説明会、センター試験の時期は高校生による本システムの参照であると推定できるため、この時期の参照数の増加は本システムの一定の効果を示しています。また、アクセス元の記録には他大学や報道機関、電機メーカーの名前も散見されますので、本システムの試みを参考にすることがいっしょに感謝しています。

今後、キーワードの入れ替えなどの維持を行い、また高校生の意見を集める機会を設けて、さらに本システムを発展させていきたいと考えています。

謝辞 本システムの構築作業に当たった山下光君、Web ページの構成や用語、レイアウトに関するご助言をいただいた株式会社 NTT データの相園安雄様と濱田美行様、株式会社佐賀電算センターの松尾佳憲様と水町光輝様の各位に感謝いたします。

佐賀大学学術情報処理センター広報 第1号（2004年3月）に掲載